

## 川合新市政の半年を振り返る

「広報川越」にみる欺瞞、あるいは「改革という名のコピー」

川合市長は改革者ではない。前市政の「踏襲者・継承者」だ！

新たなリーダー、川合市長による川越市政がスタートして約半年が経過した。オバマ熱気に煽られ、自公民から社民までがもてはやした「改革の寵児」は、この間、具体的に何を改革したというのだろうか。改革を進めるには、まず既存のシステムについて熟知し、その上で「何を改革しなけれ

ばならないのか」を慎重に検討する必要があるはずだ。だが川合市長は自他ともに認める「行政素人」。にもかかわらず川合市長の選挙時のマニフェストには、時限を「すみやかに」と明記した改革案が目白押しだった……。

## 「広報川越」の欺瞞を見抜く市民諸氏の声

「このようなことが行財政改革と呼べるのか？」

就任からさほど日も経たないうちに市民に深く印象づけられた「仏頂面で人の話を聞かない行政素人市長」のイメージ。そのためか7月後半現在、本紙にはあわせて十数本の匿名電話や投書が寄せられている。そのいずれもが、これまでなかったタイプの意見だ。つまり新市政……ことに「改革」に対する懸案である。前任者の「オール与党状態」をほぼそのまま引き継いだ「しがらみの遺産を背負った素人改革者」に対する、一般市民のなかに漠然と広がる不安を、寄せられた意見は如実に反映している。

なかでも際だって多く寄せられたのが、広報川越1202号(平成21年7月10日発行)に掲載されている「5つのかわごえづくり」に関する意見であった。そのほとんどが『5

つのかわごえづくり』に書かれているのは、まさしく前市長が行ってきたことではないのか？何が改革なのか理解できない」というもの。また「補正予算における取り組み」の解りづらい説明に対し、市広報課ではなく本紙に苦情を寄せてくる読者もいた。「ページのレイアウトを巧みに利用し市民にあえてわかりづらく作成してある」、「補正予算の1割程度のことだけを大きく取り上げ、残りの9割を何に使うのかについて隠蔽しているのではないか」という指摘には、本紙が持つべき視点をあらためて教わった感があった。寄せられたさまざまな声から、市職員はもちろん、広報を真剣に閲覧している市民の、川越市の発展を願う思いが伝わってくる。

ここで「広報川越」に掲載された「5つのかわごえづくり」を中心として、この半年で市政の何が変わったのかを検証し、また今後どう変わろうとしているのかを見ていきたい。市長選の際、対立候補を「前市

長の継承者」と悪しざまに非難した「改革者」としてはまことに驚くべきことだが、川合市長の「新市政」とは、まさしく前任者の真似、コピー以外の何物でもないことが、広報川越を見れば一目瞭然なのだ。

## 川合市長が目指しているのは、前任者が描いた川越の理念そのもの！

### 一事が万事！広報に掲載された川合市長の「基本理念」は、舟橋前市長のコピー！

まず「広報川越」の2ページに掲載されている、川合市長の「市政への取り組みをお知らせします」から、市長の言葉を引用してみよう（下線は本紙による）。

市長に就任して五か月が経過しました。

私は、「市民一人ひとりが住むことに誇りを持ち、住んで良かったと思えるまち川越」を目指しています。その目的を達成するために、市政運営の基本姿勢として「改革」「公正」「公開」の三つを掲げ、五つの「かわごえづくり」に全力で取り組んでいます。現時点で具体的な成果を示すことができる部分は限られますが、これまでの主な取り組みと、平成21年度6月補正予算の概要について、市民の皆様にご報告します。

平成21年度当初予算は、義務的な経費などを中心とした編成でした。そのため政策的な経費については、6月補正予算に計上しました。

市の財政は大変厳しい状況にあり、徹底した行財政改革を進める必要があると考えています。そこで、まずは市長と副市長の給与などを削減しました。また、6月補正予算の編成においては、事業の見直しにより生み出した財源などを、緊急に取り組むべき事業に対して、重点的・効率的に配分しました。

これからも、川越を品格ある明るく住み良いまちにするため、努力していきます。市民の皆様のご理解・ご協力をよろしくお願ひします。

「市民一人ひとりが住むことに誇りを持ち、住んで良かったと思えるまち川越」……。どこかで聞いたような言葉だ。実はこの言葉、舟橋前市長が「広報川越」にて過去に述べてきたものと、まったく同じなのである。

#### 舟橋前市長がこれまで述べてきた川越市政の基本理念に関する言葉

「市民の皆さんが住んでよかったと思える、魅力あるまち川越」

(広報川越 1100号・平成17年4月10日発行)

<http://www.city.kawagoe.saitama.jp/www/contents/1112056123442/files/1100all.PDF>

「住むことに誇りを持てる川越」

(同 1124 号・平成 18 年 4 月 10 日発行)

<http://www.city.kawagoe.saitama.jp/www/contents/1144318526554/files/1124all.PDF>

「住むことに誇りを持てる魅力あるまち」

(同 1172 号・平成 20 年 4 月 10 日発行)

<http://www.city.kawagoe.saitama.jp/www/contents/1207545190892/files/1172all.pdf>

これら舟橋前市長の言葉と、もういちど川合市長の「市民一人ひとりが住むことに誇りを持ち、住んで良かったと思えるまち川越」を見比べると、口をあぐり開けざるを得ない。川合市長のオリジナリティとは、いったいどこにあるというのか？

理念はあくまで理念に過ぎない、といってしまえば身も蓋もないが、やはり市政の基本的方向を指し示す市長からの重要なメッセージ、という意味合いは無視できないはずだ。川越市が財政困難な状況にあるのなら、たとえば企業誘致を大々的に謳い「日本一豊かな地方自治体をめざす」と大風呂敷を広げたっていいだろう。少子化・高齢化社会への不安をあらたな市政づくりのチャンスと捉えるなら、たとえば麻生首相が述べたような「活力ある高齢化社会」であってもいい。真剣に市政に取り組むのなら、多かれ少なかれオリジナリティのある基本理念が浮かぶはずなのだ。

だが川合市長はそうではない。それどころか彼の基本理念は前任者である舟橋前市長とまったく同じなのだ。コピーである。オリジナリティがないという以前に、広報に自らの言葉を載せるにあたって、前任者と同じ基本理念を発することに何のためらいも感じず、またおそらくは恥じらいすら

抱かない川合「改革者」市長の、市民へのメッセージに対する意識、ひいては市政に対する意識と真剣さこそが、大いに問題なのだ。

上記の「市政への取り組み」メッセージには、また「徹底した行財政改革を進める必要があると考えています」、「6 月補正予算の編成においては、事業の見直しにより生み出した財源などを、緊急に取り組むべき事業に対して、重点的・効率的に配分しました」と記されている。

だが実際には、6 月補正予算編成では予算増の事業予算を組んでいるものも多くあり、全体を俯瞰してみれば「徹底した行財政改革」など、影も形もない。後述するが補正予算のほとんどは土木費。起債(借金)や国からの補助金が 6 月補正予算のほとんどといっても過言ではない。「事業の見直しにより生み出した財源」など、ほんのわずかでしかないのだ。「借金をする」ことは、断じて行財政改革ではない。

川合市長は、広報課が編集制作した「広報川越」を、自らきちんとチェックしているのだろうか。先の「基本理念のコピー」をはじめ、よく恥ずかしくもなくこんなことが書けるものだ、と呆れる記述で目白押しなのが 3～4 ページ(「5 つのかわごえづ

くり」/「補正予算における取り組み」)に ひとつひとつ具体的に見てみよう。  
並べられた、数々の「改革案と成果」だ。

### 「広報川越」を検討してわかる「川合市政の実態」

前任者の業績、全国の趨勢をあたかも自分の政策であるかのように  
言葉を換え、名称を変えて得意になる川合市長

「5つのかわごえづくり」に挙げられている より市民に供するはずなのだが……。各項目を以下で検証してみる。  
「くらしづくり・げんきづくり・まちづくり・ひとづくり・しくみづくり」(タイトルをひらがなで表記することで庶民感覚にすり寄ろうとするなら、まずは川越市例規のあの難解な文章を平易に改めた方が、  
(広報川越からの引用部分は下線付き斜体で示し、各引用の下に本紙の見解を添える)

### △「くらしづくり」

#### 新斎場の建設

新斎場建設を推進するため、4月の組織改正で、市民部に新斎場建設準備室を設置しました。

新斎場建設を担当する組織はこれまでも 市民部に「新斎場建設担当」という形で存在していた。2名ほどの職員が担当していたのだが、「行政素人市長」はさっそく市民部から切り離し、独立した「準備室」を設けたのである。「室」となれば、室長・副室長・課長その他管理担当職員4～5人を要する。これが行財政改革に反する行為であることは言うまでもない。  
まず現状の斎場(川越市斎場)を今後どうするののか、についての結論が出ていない。現斎場の土地をどうするべきかということをはじめ、「やすらぎのさと」(葬儀場)に接続するべきだという意見もあり、すでに十分な検討済み資料を市は有している。現状の斎場に関する結論を出す前に新斎場の検討をはじめめるのか。そのような状況で、あえて今年度から新斎場建設準備室を作る必要などない。行政改革どころか、余計な費用をかける行政後退以外の何物でもない。

#### 地元の産業支援

地元の産業支援として、不況対策資金融資の保証料と、プレミアム付き地域商品券の発行に補助しません。

全国的に行われていることであり、埼玉 県内の各市でもすでに実施されている。ま

た「プレミアム付き地域商品券」については、舟橋前市長からの支援事業であり、商工会議所の毎年の事業でもある。「商品券の額面の1割を市が補助する」という方式であるならば、それは前任者がすでにやって

いることであり、舟橋前市長からの継続事業に他ならない。なぜ、いまさら改めて川合市長オリジナルの政策であるかのように書くのか。繰り返し書く必要さえないことである。

### 環境の保全

4月に「公共施設及び住宅への太陽光発電システムの積極的導入」の取り組みが評価され、国などにより「新エネ百選」に選定されました。また、環境にやさしい取り組みをさらに推進するため、新たに住宅用太陽熱利用機器の設置に対する補助を始めます。

本紙7月号でも報じたとおり、「新エネ百選」は平成18年までの実績（つまり前任者の実績）が表彰されたもの。「広報川越」6月号では川合市長が表彰される写真が掲載されていたが、これでは「4月に導入したものの」と市民が誤解しやすいこと甚だしい。

「嘘」を掲載しているかのようにさえ見える。10年以上前から実施されている事業を、あたかも今年から始まったかのように市民に目新しく見せるとするのは、虚偽の公表ではないのか。

## △「げんきづくり」

### 保険、医療機関との連携

4月に発熱電話相談センターを設置し、国内外で感染が拡大している新型インフルエンザに対応しました。また、関係機関・団体と連携し、感染の発生や拡大を最小限に抑えるための対策に取り組んでいます。

発熱電話相談センターの設置については国の指示により、すでに全国の市が対応している。新型インフルエンザの影響にともない、他の地方自治体では庁舎入り口や各課のカウンター等に消毒剤を置き、感染の発生に注意をうながしているところが多い。しかし川越市は庁舎トイレの洗面所に手洗いを設置したにすぎず、ほとんどの市民はそれさえも気がつかなかった。

市職員は一日に多くの市民と接するもの

も多く、また「職員の病欠」とは市役所の機能そのものの一時的欠損と同じ意味であるため、たとえば各課カウンター内の職員だけでも、全員にマスクを着用させるなどといった、踏み込んだ対策でもしないかぎり「川合オリジナル」ではない。むしろ、川合市長は新型インフルエンザ対策について、電話相談センターの設置以外、何もしていないに等しいのではないのか。

## △「まちづくり」

### 中心市街地の交通対策

一番街周辺道路の交通社会実験について、秋の実施に向け準備を進めています。

交通社会実験については4～5年前に、すでに総務企画部により実験済みのはずである。一方通行ないし歩行者天国にでき得る、という結論に達していたのだが、当時はまだ市役所前の交差点で一部、道路が狭い箇所があったため、交差点改良をする必

要があった。しかし現在は道路が拡張され、当時の障害が除去されている。そのため当時の実験で十分に実施可能だ。同じ実験を何度も繰り返すことで税金を無駄遣いしてはならない。

### 公共施設のバリアフリー化、安全・安心の道路づくり

子供たちが安全に登下校できるよう、通学路を整備します。

通学路の整備はこれまでも常に行ってきた事業である。いままでやらなかった、とでもいうのだろうか。6月の補正予算では歩道整備費に1500万しか予算が計上されていない。これはすなわち、アスファルトの一部補修等の小さな工事以外、ほとんど何もする必要がない、ということ自ら認

めたのも同じではないか。前任者どころか、川合市長の父親である川合喜一市長時代より、さらに昔から継続している事業だ。何をいまさらこんなことを書いているのだ？市民は何も知らない、とでも思っているのか？

### 新庁舎建設の再検討

川越駅西口移転の考え方を白紙に戻し、市民の皆様や議会の意見を踏まえて、庁舎のあり方や整備方法など慎重に検討していきます。

新市庁舎建設計画に関し、市民の意見や議会の意見を聞くこと自体はいい。だが「白紙にもどす」のではアンケート等、これまでの調査や資料が無駄になる。それは5000人にアンケートを採ったその労力や費用を、ドブに捨てることと同義だからだ。この問題については「何が行政改革だ」と、怒りをあらわにする市職員や市行政関係者も存在する。

6月補正予算では、庁舎建設検討として1億円が追加補正された結果、合計で1億798万2,000円という総額が組まれている……。つまり当初予算では約800万円しか組まれなかったのである。

川越市に確認したところ、この1億円とは「将来の庁舎建設に対する基金」である。しかし「補正予算」とは本来、「補正する必要性が生じた」場合に組むもの。基金の9

割近い金額を「補正」としてつけること自体の意味がわからない。また建設計画そのものを「白紙に戻す」(なかったことにする)のであれば、新庁舎の建設に関する再度の

検討も行われないうちに基金を設立していることになる。これはもう完全に、「庁舎建設先にありき」の話、といってもいいだろう。

## △「ひとつくり」

### 小中学校の耐震化

小中学校の耐震化計画を大幅に前倒しして、平成 24 年度末までにすべての小中学校の耐震補強工事を完了する予定です。

川合市長お得意の「前任者の事業の言い換え」を通り超えた、悪質な嘘だ。どこが嘘なのかと言えば「大幅に前倒しして」の部分。昨年 6 月の文教常任委員会第 1 日目、小中学校の耐震化計画について質問された、当時の教育総務部副部長は以下のように答弁している。

\* \* \*

教育総務部副部長： 小中学校の耐震化の推進計画におきましては、倒壊もしくは崩壊の危険性が高いと言われる I S 値〇・三未満の建物については、平成二十四年度までに終了する予定です。同じく〇・四未満の建物につきましても、二十四年度を目標に耐震化に努めてまいりたいと考えております。

(2008.06.23：平成 20 年 文教常任委員会 会期中(第 1 日・6 月 23 日)教育総務部副部長による答弁)

\* \* \*

すでに文教委員会にて「平成 24 年度までに終了」と答弁されている。では、川合市長の計画の、いったいどこが「大幅に前倒し」なのだ？たとえば「今年度中(平成 21 年度末までに)に工事を完了する予定」とするならば、はじめて「大幅に前倒し」と言えるだろう。1 年程度の早期実現ですら「大幅に」とは言えない。それどころか、前任者と同じ「平成 24 年度末までに終了予定」なのだ。川合市長は、こうした「改革」を広報に掲載しても、恥ずかしくないのだろうか。あきらかな欺瞞ではないか。

### 中高一貫校の設置

中高一貫校の設置に向け、4 月の組織改正で、学校管理課に中高一貫担当を設置しました。

中学校への就学は義務教育である。だが高等学校への進学は自由選択に任されている。いくら中学卒業からの就職が非常に厳

しいのが現状とはいえ、高校への進学は、経済的問題等、なによりそれが許される条件が整っているものに限られる。地方自治

体が中高一貫校の設置を考えるというのはつまり、子女を高校に進学させ、勉学をつづけられる市民だけを対象とした事業計画であり、子女を高校進学させられない市民を捨象したもの……つまり基本的には差別的な事案であるといえよう。

この問題は、私学における教育理念実現の形としての「中高一貫教育」と本質的に別次元のものである。地方自治体が税金を用

い、教育について事業計画する際、「子どもを高校に行かせたくても行かせられない」納税者市民を排除したプランを立てるべきでは決してない。

ましてやこの「本質的にやるべきではない計画」に担当を設置し、部長級職員が就任しているという事実は、川合市政がいう「行政改革」の本当の姿を、端的に表している。

### 雇用対策

4月の組織改正で、緊急地域経済対策室を設置しました。悪化する雇用情勢に対応するため、就労相談室の設置・就労支援セミナーの開催・離職者の家賃助成などを実施します。

勤務先の業績悪化などで解雇された方を対象に、緊急雇用創出事業として60人の雇用を創出したほか、市は臨時職員として11人採用しました。また、離職者などを支援するため、来年度採用予定の正規職員の一部(10人)を10月1日付けで前倒し採用します。

川合市長はどうしてこうも「すでに全国的に行われていること、あるいは前任者がすでに着手したこと」を、さも自分の業績のように語るのが好きなのか。ここに記さ

れた雇用対策など、経済悪化により全国で行われていることではないか。川越市だけが特別なのではない。何をいまさらこんなことを、うやうやしく掲げるのか。

## △「しくみづくり」

### 行財政改革

現在の市長の任期中に限り、市長の給与を20%、副市長の給与を10%減額します。また、現在の市長に限り、任期は連続3期を超えないように努めることとしました。

果たしてこれは「行財政改革」なのか。川合市長は「改革」というものを、根本的にはき違えてはいないだろうか。いわゆる「民間」感覚の欠如、市場経済感覚の希薄な、世間知らずの「行政素人弁護士市長」が、得意になって自分のことを語っている

としか思えない。「労働それ自体が尊い」という資本主義の精神を欠いた社会では、得てしてこのような愚策が生じることもある。

最も重要なことは「100%の給与を堂々と受け取り、120%の仕事に奮闘努力すること」だ。小手先の減額など問題ではない。満額

(正当な報酬)を受け取り、満額以上の仕事をするところこそが、市民に対する貢献だ。「20%の給与カットで100%の市長業務」なのではない。

これまで見てきたとおり川合市長は、不要不急な「新斎場準備室」や「中高一貫教育担当」の設置で幹部職員を増員している。その費用たるや、市長自身の給与カット20%ではとても追いつけるものではない。さらには「任期は連続3期を超えないように努める」のも、行財政改革の一環とでもいうのだろうか？

#### 徹底した情報公開と市民参加

公正でわかりやすい市政を実現するため、市民意見箱の設置や、地区ごとに市民の皆様の意見を伺う「タウンミーティング」を実施しています。また、市の財政事情など、できるだけわかりやすく伝えるように努めています。

川合市長はどうしてこうも「前任者の施策の言い換え」をするのだろうか。舟橋前市長も「目安箱」を全市内に設置していたではないか。「目安箱」が「市民意見箱」と、

極端に言えば、たとえ10期務めてもいい。満額の給与(正当な報酬)を受け取り、持てる能力、体力、気力をふりしぼり、120%以上の仕事をせよ……。それが市民に対する本当の貢献であり、行財政改革の根本的な精神だ。リーダーの自己犠牲は労力に対して奨励されるべきであり、報酬に対して課せられるべきではない。市長・副市長に倣い、もし職員全員が給料を10%減らされたらどうなるか。誰もまともに仕事をしなくなるだろう。

その名前が変わっただけだ。そして前市長もまた、市民の声を聞くべく、出張して川越全市内を回っていた。効果のほどはさておき、それは事実だ。

#### 文化・スポーツ部の新設

市の組織を全体的に見直す中で、文化・スポーツを担当する部の設置を検討しています。

これらを実施する課や担当は、すでにそれぞれ存在している。行財政改革が叫ばれ「百年に一度の経済危機」が深刻な経済悪化を招いている今日、すでに存在する「課」

や「担当」を独立させ、不要不急な「部」を新設するというのは無駄遣いであり、改革に真っ向から逆らうものだ。いったい川合市長は何を考えているのだろうか。

#### 男女共同参画社会の実現

4月の人事で、積極的に女性を管理職に登用しました。

川合市政に新たな評価すべき政策が実行されたとすれば、唯一これだけである。換

言すれば「積極的に女性を管理職に登用」した以外に、川合市長は何も「改革」して

いないに等しいのである。

## **「改革者」が聞いて呆れる 選挙戦でのしがらみを抱え込んだ川合市長は 「舟橋前市長」の忠実な踏襲者！**

これまで見てきたとおり、広報川越 1202 号に記された「市政への取り組み」の中味には、改革と呼べるものはまったくなく、前舟橋市政の継続に過ぎないことが読者諸氏にもおわかりいただけたと思う。

本紙はなにも「広報川越」を題材に川合市長の揚げ足を取っているのではない。「かわごえづくり」を実行中とあるが、以前から行われてきたことを改めて強調しているだけである。川合「コピー」市長は、前市長からの引き継ぎを自分の手柄のように見せ、あたかも自分が市長に就任してからすべて実行してきたかのように表現しているのだ。ならば「私は前市長の市政方針を進めていく所存であります」と広報に掲載された方が正直で好感がもてるし、市民も「川合市政」を理解しやすいだろう。

言葉を変えただけで中味は前市長の市政方針となんら変わりがない川合市政。「オリジナル」を生み出さないどころか、前任者の方針に追従し継承することを「改革」と称する川合市政。これでは川越市が後退することは、火を見るよりも明らかではないか。「行政」という行為には、誤魔化しや偽りがあっては決してならない。川越市政の基本理念として前市長が述べた言葉を使い回すとは、川合市長は市民の存在を余りにも軽くみてはいないだろうか。

6月補正予算約 29 億円のうち、「広報川

越」に記載されていない約 25 億円分はほぼすべて、起債と補助金のでる土木費に予算化。繰り返すが「事業の見直しにより生み出した財源」など、わずかしかない。大規模な借金（起債）に、不要不急な部署の新設。ご自分の給与 20%カットを自慢し「行財政改革」とは、ふざけているのでなければ何なのか。もっと真剣に、やるべきことが山積しているだろう。

市政運営の基本姿勢に「改革」「公正」「公開」を掲げる川合市長。だが広報一つ取り上げただけでも、あちこちからボロが出るお粗末さ。「現状維持」（＝停滞）するだけならまだしも、選挙戦でのしがらみをたっぷり抱えた「人の意見に耳を貸さない、仏頂面の行政素人弁護士」の「改革」により、後退を余儀なくされている現在の川越市政に、明るい未来は見えてこない。■